無料

すくらむ

かわさきの男女共同参画情報誌

vol.
78
2024.6

かわさきで つながり暮らす女性たち

～エンパワメントを紡ぐインタビュー～

https://www.scrum21.or.jp/

特集
Special Contents

かわさきで つながり暮らす女性たち

すくらむ 21 では、昨年度より「かわさきで生きる女性の声の聞き書き調査」を実施しています。
前回 vol.75 号の本誌に続き、2023 年度は「生活者」をテーマに新たに３名の方にお話を伺いました。
その一部を皆様にお届けします。

インタビュー #01

カラカサン～移住女性のための
エンパワメントセンター～

西本（にしもと） マルドニア（まるどにあ） さん

私が日本に最初にあこがれたのは7歳ぐらいの時です。お父さんが船の関係の仕事をしていて、外国人の船へ連れて行ってくれました。日本の船が一番好きでした。日本の人はすごく優しかった。みんな英語がわかり、着物とかお醤油とか色々なことを教えてくれた。

家は10人きょうだいです。日本へ行けば家族が貧乏でなくなると思いました。18歳でマニラ市内の日本のレストランで働いて、夜に学校へ行き日本語を勉強しました。いろいろなことがあり、結婚せずに子どもを産みましたが、相手から暴力をふるわれました。日本人のパートナーがいる友達がいて、日本のスナックで仕事があると声をかけられました。フィリピンだとスナックは喫茶店の意味です。それで日本に行くことにしました。1987年のことです。

東京とかへ行けて日本語もうまくなる、家族も豊かになると思ってすごくうれしかった。着いたのは沖縄でした。他のフィリピン人10人くらいと一緒で、スナックというのはバーでした。夜になったらお酒を出してお客さんと話をする。ショックを受けましたが、1カ月500ドルあれば家族を助けられると思って我慢しました。友達のパートナーはヤクザでした。私はだまされているんじゃないかと思って店のオーナーに話をしたんです。そうしたら、（観光ビザが切れる）3カ月でフィリピンに帰れと言われた。何回も「話が違う」って言いました。でも相手はみんなヤクザの関係者で、私の命が大事。そう思ってフィリピンに帰りました。何年もたってからですが、その友達に「まだもらってない給料2カ月分をもらえなかったらフィリピン大使館に全部言う」と言ったら給料をもらえました。ただ黙っているだけでなく、主張しないといけません。

どうにかしてもう一回、日本で生活、勉強、仕事をしたいと思って、観光ビザで来ました。オーバーステイ（超過滞在）になって隠れている人がいっぱいいたけれど、私は隠れるのが一番嫌でした。ビザがほしいと思い、日本人と結婚しました。

その方とはどうやって知り合ったんですか。

再度スナックで働いていたとき、その人は車いすで来たお客さんでした。2人子どもがいるというので「私をあなたのメイドにして」と言ったら、結婚したいと言われました。手続きをしたら、フィリピン大使館の人が「大丈夫？　この人と結婚するの？」。この人が結婚するの

は7回目だというのです。まただまされたと思ったけれども、思い切って諦めて、娘と一緒に大阪で暮らしました。

一番ショックだったのは8歳の娘への暴力でした。理由は娘が野菜を食べられないから。フィリピンでは野菜は火を通すんです。娘は泣いてしまい、1カ月ぐらいでフィリピンへ戻しました。DVや暴力はいけない、離婚しないと、と思った。でもその人はお金持ち。ヤクザだし。何回も逃げて、埼玉や長野や京都に隠れました。探し出されると私の命が危ない。川崎に来て、あちこち住所を変えて、隠れてばかりで疲れました。不動産屋へ行っても外国人だと部屋を貸してくれない。差別です。悔しかったです。ビザも切れそうでした。

別の男性と知り合って一緒に住むようになりました。日本人の子どもを産んだら日本を追い出されないと思い、その人の子どもを産みました。今の名前の西本は、その人の苗字です。この人は私を守ってくれて、日本でいいファミリーになれると思いました。

ヤクザの男には「子どもができました」と言って、やっと離婚しました。でも息子には国籍がない。泣いて男性にお願いして、登録して（男性から認知されて国籍を得て）ほっとした。まもなく娘を呼びよせました。私が夜はスナックで働いて、娘が息子の面倒を見ました。

でもその男性の心が変わって、住まいの分のお金しかもらえなくなった。紙おむつとか生活費は全部自分で稼ぐしかなくなった。一番大きなショックは、娘が（その男性に）レイプされたことです。これは許せない。すごいパニックになって、私は川崎にある教会で泣いて、みんなが応援してくれた。でも弁護士を頼むにもお金がない。「お金の問題じゃない」と神父さまに言われました。「あなたの権利、あなたの子どもの権利、ちゃんと守らないといけない」って。

ありがたいのは法テラスでした。（弁護士費用を）毎月の分割払いにしてくれます。それで、この男が刑務所に行くようにと（警察に）訴えた。息子の親権（者）は私になったけれど、娘が精神的にくたくたになってしまった。何度も警察に呼ばれてインタビュー（事情聴取）されて、すごかった。私もインタビューされて、なんであなたは夜に仕事してたのかとか、私が悪いみたいに言われた。警察も向こうの味方をしていると思った。私が男性を訴えたのはダメになりました（起訴されなかった）。娘はフィリピンに帰したんですけれど、仕事もできなくて、今もメンタルの問題とかあるから生活は私が応援しています。

私たちを助けてくれたのは滞日外国人と連帯する会(正式名称・カトリック横浜教区滞日外国人と連帯する会)でしたが、2002年に解散してしまいました。たくさんの外国人のお母さんたちが、DVを受けてもどこに相談すればいいかわからない。じゃあ女性だけの団体を作りましょうと、それでカラカサンができたんです。

そのころはDVがすごかった。オーバーステイやビザの問題もあった。私たちだけでは解決できないから他の団体へ働きかけて、学校や大学、北海道へも行って話をして、それで他のNPOやNGOが応援してくれるようになりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナになって問題だったのが食べるものですね。食べるものがない、仕事もなくなったと電話がきた。最近はコロナでの精神的な悩みが多くなりました。たとえばコロナで旦那さんが死んで、子どももどこかへいってしまい、仕事も生活もあって精神的に辛いという相談。お互いに助け合う私たちのパワーで支援します。

息子は学校でいじめられて、いろんな団体と連携しました。いじめはなくならないけれども、いろんな団体に行って話していけば、差別が少なくなると信じています。相談に来た人は、警察や病院に行っても日本語が話せない。私たちが無料で通訳します。区役所も電話をかけてきて、「フィリピン人が全然日本語がわからないから、助けてくれるか」。シェルターにもあちこち通訳で行っています。

最近、若いボランティアが来てくれます。私たちは日本語を読めないので、病気のこととか何が書いてあるのかわからない。事故があったときも電話すると、病院へ一緒に行ってくれます。先生（医師）の話や保険のことを説明してくれる。私は日本の社会は変わると信じています。私たちもおばあちゃんになりましたが、若い力が続いていく。私の希望は、日本の社会もどこでも豊かで平和であることです。

インタビュー
#02

下野毛工業協同組合

小林 玲子 さん

小林さんは、ご出身は川崎ですか。

生まれたのは東京都墨田区の向島です。父の仕事の関係で岡山と横浜と向島を行ったり来たりして、小学4年生のときに府中市に住むようになりました。染織デザインの専門学校を出て寝具・インテリアの会社に入り、布団カバーや毛布のデザインなどをしていました。仕事は楽しく続けたかったのですが、結婚して子どもができました。その頃は育児休暇もないし、保育園もほとんど入れず、女性は子どもできたら辞める時代でした。それに結婚したら家が川崎で職場から遠かったんですね。両親と同居ですし、仕事は諦めました。子どもは3人います。

組合に入ったきっかけは。

子どもが幼稚園の頃に義母が「働いたほうがいいよ」というので、子どもを母に預けてヤクルトレディをして、その後は生命保険の外務員をしました。フルタイムで勤めたいと思って仕事を探しましたが、当時は子どもと年寄りがいると断られたんです。「子どもが病気になったらどうするの」「お年寄りの具合が悪くなったらどうするの」って。ハローワークに何か月か通ったところ、この下野毛（工業協同組合）の事務所の求人がずっと残っていました。家から近かったこともあり面接を受けたところ「すぐ来てほしい。子どもや年寄りがいてもかまわない」と言われました。平成6年（1994年）のことです。

事務所はどんな感じでしたか。

私1人でぽつんと…。ワープロが置いてあり、「これ慣れてね」って言われました。当時は集金と電話番がほとんどで、自分でパソコンを練習して文書を作ったりしました。

組合の理事さんたちは、ふだんはいないのですね。

いないです。一時、補助金関係の仕事で手伝いの方に来てもらった以外は、ずっと一人でした。そのうち行政関係の仕事が増えて、10年近くたったころ、国の大きな補助金を受けるため、事業計画作りや講師探しなどのお膳立てをするようになりました。労働保険事務組合の立ち上げも重なって、かなり忙しくなりました。

市内に工業組合はいくつあるのですか。事務局は女性の方が多いのでしょうか。

川崎市工業団体連合会には7団体が所属しています。事務局長は、当組合以外はすべて男性です。私自身は事務局長ではないですけれど。

仕事の内容を教えていただけますか。

他の組合の会費等は振込が多いですが、うちは集金で、必ず月1回全社を回り、その都度行政や組合からのお知らせを説明しています。最初のころは、私が女性なので「あ、事務員ね」みたいな感じでした。「女性はお茶くみ」という感覚の方が多かったんです。補助金の資料を持って行っても「そこに置いといて」とか。でも毎月行って会話していると、社長さんたちもだんだんとこちらを向いてくれるようになりました。10年ぐらいたったら変わってきましたね。

女性というと「お茶くみ」ですか。

工場ですからね。最初の頃は「パートさん」が少しいるだけで、女性社員は、事務以外は全然いませんでした。現在、当組合の社長は8、9割が2代目さんで、2代目さんが継ぐようになると、学校教育もそうだったと思いますが男女差別の感覚はないです。女性社員の方も増えて、工場内を見てもみなさん対等に仕事をしている感じです。

工場で機械を動かす現場にも女性が増えてきたのですね。

15年ぐらい前に第1号の方が入りました。職場が明るくなって男性も楽しそうでした。製造業の現場に入ってくる女性はさばさばした方が多いですね。

ほかに大変だったことはありますか。

20年ぐらい前の人材確保の補助金申請の時は、ほとんど私1人でまとめたので、2回ほど体を壊しました。書類作りが大変で、領収書をまとめたり報告書を作ったりするんですが、事業内容を精査されるので、横浜にある補助金窓口の財団まで何回も行き来しました。補助金を受けた期間は合計7年ぐらいで、報告書の資料は半年分でこのぐらいの厚さ（手で示す3〜4cm位）になりました。

お子さんを３人育ててご両親もいらっしゃったのですよね。

その頃は子どもも小学生と中学生になっていたので、一度家に戻ってご飯を作り、また事務所に戻ってとか、自転車で15分ぐらいの距離なので、行ったり来たりで両立させていました。遅い時は夜11時ぐらいまで事務所にいたときもあります。総会の資料作りとか、会計士さんなどとぎりぎりまでやり取りしていました。

介護はされましたか。

介護のときは一番きつかったです。母が認知症になり父が世話をしていたんですが、父ががんを患って先に亡くなったんです。母をデイサービスに預けて、帰ってくる時間に合わせて自転車で家に戻り、子どもが学校から帰って母の世話をするので私はまた仕事に戻るという生活を何年もしました。施設から母の具合が悪いといって電話がくると、迎えに行くこともありました。子どもたちが本当によくやってくれました。

下野毛は工場がたくさんある地域ですが、どのような土地柄ですか。

工場が地域に集中していて横のつながりがすごく強いんですね。同じ場所に工場と住宅がある方も多く、息子さんたちも小学校の頃から一緒で、その方たちが今2代目社長になっています。そのつながりがあるので他の（工業関係の）団体よりも動きはいいと思います。

地域の変化をどう感じていますか。

工場が移転した跡地に住宅と家族向けマンションが増えたので、住民とうまくやっていくのが今は一番の課題です。マンションなどは住民が変わるので、工場から離れていても、朝、クレーンを動かすキーっという音がしただけで苦情が市に入るんです。各工場が騒音対策として窓の閉め方などを細かく説明したり、市で音を測定したりして、何度かご説明すると苦情もなくなるんですが、最近は無記名のメールでの苦情も多く、どこのだれかわからないので困っています。

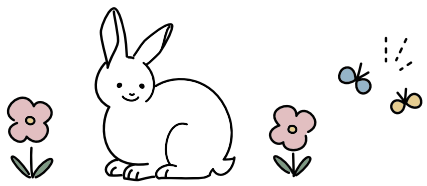
工場を外部に公開するオープンファクトリーに取り組んでいますね。

2014年から毎年実施しています。周囲に住宅が増えたので、行政と専門家を交えて勉強会を開き、専修大学、川崎市、（一般社団法人）川崎北工業会と当組合で「ものまちづくり会」を立ち上げました。近所に住む高齢の方々から「シャッターが閉まっていて何をしているのかわからず怖かった」という意見があったので、オープンファクトリー時に工場を開けていただき、最初はご近所さんを対象とした見学会でスタートしました。「みなさんが使っている製品のこの部分を作っています」などと説明すると、「安心した」「見学できて良かった」と言っていただいて、実施して良かったと思います。

そのうちに子供たちの見学も増えてきたので、近隣の小学校にも対象を広げ、今は東高津小と宮内小の全校生徒にお知らせを配っています。隔年で体験教室も実施して、作ったものを持ち帰っていただくととても喜ばれ、お父さん、お母さんのほうが夢中になります。参加者は最初、120人ぐらいでしたが、今年（2023年）は690人ほどに増えて、10社に工場を開けてもらい、そのうち6社がものづくり体験を行いました。すごい人気で、メールでの申し込みも１日で定員のほとんどが埋まります。

工場のかたがたも盛り上がりますよね。

最初は社長さんと息子さんたちが中心でしたが、従業員さんに声を掛けると中には「休日も出勤するの？」という感じもありました。最近は会社ぐるみで協力してくれるようになり、参加した若い従業員の方々などはすごく楽しんで一緒に活動しています。



インタビュー
#03

川崎市看護協会　会長

堀田 彰恵 さん

お生まれは静岡県ですね。

掛川市という近所のつながりが濃い地域で、夜寄り合いで各家庭に大人が集まったり、年齢が違う子ども同士で缶蹴りをしたりするような環境が自然にありました。母は床屋、父が国鉄の機関士で2人とも仕事があり、私は地域の遊びの中で過ごしました。

看護師になったきっかけは。

母は樺太から引き揚げて大変苦労をし、自分で稼ぐことが必要だと思って床屋を選んだそうです。私も母から「何があっても自力で生きていくために手に職をつけることが大事」という刷り込みがあったので、何か資格を、とは思っていました。ただ必ずしも看護師になりたかったわけではなく、生物化学の方に進んで教員免許を取ろうと思いましたが、たまたま受けた看護学科しか受からなかったんです。それが縁で保健師になり、結果的には本当によかったと思います。

短期大学部の3年間で看護師資格を取り、さらに１年の専攻科で助産師の資格を取って名古屋の小さな市立総合病院に2年間勤めました。保健師の資格を取りたいと思ったのは、看護学科の実習で保健師は面白そうだと思ったからです。計画を立てて長期的なスパンで何かの実現を目指す保健所の仕事に興味を感じました。それと、看護師はずっと動き回る仕事なので、「机がある仕事」もいいなあと（笑）。助産師を経験した後に保健師の養成学校に1年行き、資格を取って川崎市に入職しました。

なぜ川崎だったんですか。

それが、川崎しか受からなかったんです。保健師の学校は横浜でしたので、横浜も東京の特別区も受けたけれどだめでした。面接では、こんなことやあんなことをしたいと大きなことをしゃべり、今思えば私が面接官でも採らなかったと思います。採用してくれた川崎市には感謝しています。

仕事は地区担当から始まりました。保健師は担当する地域の赤ちゃんからお年寄りまで相談を受け、乳幼児健診など所内事業にも従事します。

私は幸保健所の日吉分室に配属され、一人で担当する地域の人口は約1万人位だったと思います。ここで地域の人たちと仕事をする醍醐味を学びました。日吉分室は室長も含めて保健師7人と、事務職と運転手が3人の小さな職場でした。私以外の保健師はベテランで、住民との関わり方がものすごく上手。仕事で関わっている感じがなく、オープンマインドで、会話がご近所さん同士みたいでした。

重要な仕事の一つに地区組織活動があります。保健師が市民の活動を応援して活発にしていくんです。「活動が形づくられるプロセスを支援するが、結果が出たとき保健師には光は当たっていない。市民を支える黒子なんだ」と先輩たちが言っていました。住民が主体となって生活の中で市民が助け合う活動を目指して、保健師も仲間になって考えていきます。例えば赤ちゃん相談やリハビリ教室では、「ここは保健師さんが指導してください」「リハビリの先生にお願いします」などと、地域の皆さんが運営していくんです。当時の保健師の先輩がたは、人間味があふれていて、市民との距離感や応援のし方は職人技に近かったです。

地区担当の後、本庁に変わられたんですか。

20年ぐらい地区担当保健師として区で働き、平成19年度（2007年度）に初めて本庁に移りました。本庁では最初、母子保健係長をしました。「こんにちは赤ちゃん事業」（厚生労働省の乳児家庭全戸訪問事業）の立ち上げや、国が妊婦健康診査事業を拡充したのに合わせた川崎市の制度づくりなどを手がけました。本庁でも地区の担当保健師として市民と話したことや家庭訪問を経験したことが、制度を作るときにすごく力になりました。

例として、妊婦健康診査の費用補助を14回に拡充する際に、現場での体験を活かして補助券に1枚だけ高額な券を作ったことが挙げられます。補助券は妊娠の届け出の

ときに交付される仕組みで、自治体ごとに内容が異なります。拡充の検討過程では、健診1回あたりの補助額を全部同額にする案もありましたが、1枚だけ高額にしたのは、現場にいたときの助産師さんたちの声があったからです。望まない妊娠で周囲にも妊娠を言えず、産むしかない時期になって「お金がないんです」と窓口に来る女性たちがいる。財布が空でも感染症の検査などを必ず受けてもらえるように、その費用をカバーできる補助券を作りました。

補助券を助産所で使えるようにしたのも、全国に比べ川崎は少しですが、早かったです。助産所で健診を受ける女性たちと話をして、公平性の点から全ての妊婦さんが補助券を使えるようにしたいと思いました。すぐ後に国からも通知が出て、助産所でも使えるようになりました。

育児グループの立ち上げにも力を入れたんですね。

例えば、中原区にいたときに、出産後のお母さんと赤ちゃんの家庭訪問をした際、双子を育てているお母さんから「2人を連れて外に出るのが難しい。他の人はどうしているのだろう」と相談されました。担当地区に双子が何組かいたので、「他のお母さんたちに聞いてみるから、つながれそうだったら窓口をやってほしい」とお願いしました。子育てOG世代で応援してくれるボランティアも見つかり、多胎児の子育てサロンへと広がっていきました。他の活動の立ち上げに関わったときでも同じなんですが、大切にしているのは最初の人の声なんですよね。そして、最初から当事者が活動の中心にいてもらうようにしました。

看護協会の会長をされていますが、看護協会がある市は全国で川崎市だけだそうですね。なぜそれができたのでしょうか。

昭和の終わりごろ、当時の神奈川県看護協会川崎支部で役員をしていた看護の大先輩方が、川崎の看護の質の向上などに自分たちで取り組むために、活動拠点

が欲しい、法人格を取りたいと動いたんです。行政からの研修の委託などは法人格がない支部では受けられないんです。行政や医療関係団体からも勧められ、平成8年（1996年）に川崎市看護協会が設立されました。

市の協会のメリットの一つは、小回りがきくことです。すくらむの「お月さまカフェ」（シングル女性のための居場所づくり）で心と体の健康相談を担当していますが、そういう協力もすぐに決められます。川崎市の医療関係5団体（医師会、薬剤医師会、歯科医師会、病院協会、看護協会）の一員にもなっています。さらに、川崎市看護協会が色々な機関や団体とつながることで、市内看護職が様々な経験ができるような環境をつくり、エンパワーメントができればと思います。

看護業界では離職が多いのが悩みだと聞きます。

退職は止められなくても転職するときに川崎で働いていただきたい、川崎市に看護協会があることが何かメリットになればという思いがあります。今年の目標は「職場がつらい」と思う段階でサポートできる仕組みを作ることです。今も相談窓口はありますが、結婚や出産で辞める方が多いので、そういう方々に寄り添う存在になりたいんです。

インタビュー・構成／林 美子さん

札幌市出身。1985 年朝日新聞に入社し、経済部、北海道報道センター、特別報道部などを経て 2016 年退職。現在はジェンダーや労働分野を中心にフリーランスで取材、執筆を続ける。お茶の水女子大学大学院博士後期課程在学（ジェンダー学際研究専攻）。「メディアで働く女性ネットワーク」会員。

3 名のお話の続きは、2025 年度発行予定の報告書に掲載いたしますので、楽しみにお待ちください。

女性の視点で考える防災の知恵袋

27

「いろんなことをやってみる」、それも備えになるんです。

防災のお仕事をしているので、普段から「災害時にも使えるものはないかな?」と考えながら街中を観察しています。最近、施設のトイレの周辺にある飲み物の自動販売機に併設して、おむつの自動販売機を見かけるようになってきました。

「おむつの自販機?」と思われた方もいらっしゃるでしょうか。乳幼児用のおむつと言えば、大容量単位で売っているのが通常ですが、私が見つけた自動販売機では、出先でぱっと使えるように2枚入りのおむつや、おしりふきを1パックずつ売っていました。

「乳幼児のおむつは、我が家では使わないなぁ〜」と思ったのですが、「おしりふきなら買ってもいいかも!」と思いつき、物は試しでおしりふきを買ってみる事にしました。私が試した自動販売機は、左側にいろんな飲み物が、右側におむつやおしりふきが売っていて、お金の投入口がその間に設置されていました。

小銭を入れて、おしりふきの購入ボタンを押しました。…が、商品が出てきません。「あれ?故障かしら?うーーん、もう一回!」と、小銭を入れて購入ボタンを押してみました。でも、やっぱり出てきていません。あららら…。この自動販売機を使ったことがある方は、「もしや …」とお分かりかもしれません。私は、機械中央のお金投入口に小銭を入れて購入ボタンを押した後、普段、飲み物が出てくる左側の商品口を何度も確認して「ないなぁ…」と思っていました。

でも、実は右側にも商品口があったのです!

そしてそこには、おしりふきが2つ、出ていました。それはそうですよね。2回お金を払ってボタンを押していますから（笑）。

私は、防災講話でこんな言葉をお伝えします。

「普段やったことがないことは、いざという時にはできません」

この言葉通り、私は初めて自動販売機でおしりふきを買って、失敗しました。右側にも商品口があると知らず、左側の飲み物用商品口を何度も見て「機械が壊れたのかしら?」と思っていたのです。機械のせいではなく、私が「やったことがない」ことが理由でした。

でも一度失敗したので、もう大丈夫です。商品口が2つあることは覚えました。そして、これを読んでくださっている皆さんも「商品口は2つね、わかった!」と思ってくださったことだと思います。

「でも、おしりふきなんて普段使わないしね〜」と言う方もいらっしゃるかもしれません。ちょっと考えてみてください。おしりふきは、あかちゃんのおしりを拭くものです。ということは、みなさんの肌を拭いても、問題がないはず!

というわけで、私が買った2つのおしりふきは、手はもちろん顔もお肌も拭いて、あっという間に使ってしまいました。また、その使い勝手に大変感激したので、我が家の防災備品としておしりふきがローリングストックされることになりました。

みなさんも、ぜひいろんなことをやってみて、いろんなものを試してみて、災害への備えを進めてくださいね。

建設コンサルタント（日本ミクニヤ株式会社）勤務
（一社）福祉防災コミュニティ協会 事務局兼務

防災士　上園 智美

タイでプライド月間について考える

31 すくらむコラム

私は小さいころから、「男の子ならこうするべき」や「女の子はこれをしてはいけない」など、個人の気持ちや想いと関係なく、性別を理由に決められてしまうことに疑問を感じていました。大学生になり、ジェンダー学と出会ったときに、モヤモヤの答えはここにあったのだと感じました。それ以来、男女共同参画センター等での勤務を経て、現在はタイにある大学院にて、アジア各国から来た学生と一緒に勉強を続けています。

さて、6月はプライド月間です。1969年6月27日、アメリカ・ニューヨークのゲイバー「ストーンウォール・イン」に警察が不当に踏み込んだ際、当事者たちがこれに抵抗し、警察との衝突が勃発しました。この抵抗は3日間にわたり続き、その後の性的少数者の権利運動のきっかけとなりました。このストーンウォールの反乱を記念し、6月はPride Month（プライド月間）と呼ばれ、世界各地で性の多様性に関する様々なイベントやキャンペーンが展開されるようになりました。日本では4月19日から21日にかけて、東京レインボープライド2024が開催されました。

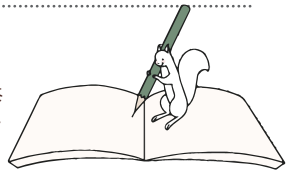
タイでは、バンコク・プライドが5月31日から6月4日までの5日間に渡って開催されました。また、バンコクに限らず、タイ国内でプライド月間に合わせて、様々な催しが開催されました。今年のテーマは、Celebration Of Love。これは、今年の3月にタイの下院にて同性婚を認める法案が可決され、同性婚の実現に大きく近づいたことをお祝いする意味があるようです。法案の成立には今後上院での可決、そして王室の承認が必要ですが、年内には成立の見通しと報じられています。法案が下院で可決された際には、タイの友人たちがSNSなどで喜びやお祝いの気持ちを投稿していました。

ジェンダー学を専攻していると言うと、タイの人からは「タイはLGBTQ+にオープンだから、勉強するのにいい環境だね」とよく言われます。ジェンダー学はLGBTQ+に限らず、ジェンダーの視点から広く社会について考える学問ですが、この言葉からタイの人々やタイ社会のLGBTQ+コミュニティに対するまなざしが感じられるようで興味深いです。あるタイ人の友人の周りではカミングアウト（自身の性的指向や性自認を公表すること）する人が増えているそうで、誰もが自分らしく生きられる社会になってきていることが嬉しいと話してくれました。日本でもタイに対して同じようなイメージがあるのではないでしょうか。

一方で、タイの社会は宗教や民族など、様々なバックグラウンドの人が集まる多様な社会です。経済的な格差もよく見聞きする問題です。本当に誰もが自分らしく生きることができているのだろうかと考えることもあります。日本について考えても、東京や川崎のような大都市と地方、日本に住む外国人、外国にルーツのある人、障がいのある人など、それぞれが直面する困難は違うのではないでしょうか。川崎は多様でカラフルな街だと思います。プライド月間では多様でカラフルな社会をお祝いしながら、その中にある差異、違いにも目を向けながら過ごしていきたいと思っています。

荒川（あらかわ） 泰輝（たいき）

1993年、茨城県生まれ。早稲田大学卒業、英国・サセックス大学ジェンダー・暴力・紛争修士課程修了。男女共同参画センター等での勤務を経て、現在タイにある大学院にてジェンダーと開発学の修士課程に在籍中。



BOOKS

2022 年 9 月発行
（著者）レスリー・カーン
（翻訳）東辻賢治郎
（出版） 晶文社

『フェミニスト・シティ』

日々何気なく使っている駅や建物、道…。私たちが生活する都市に、性差別の仕組みが埋め込まれていると、考えたことがあるだろうか？

ベビーカーを載せづらいバスや電車。歩くことが怖いと感じる夜道。ジェンダーに地理的なレンズを導入することで、これまであたりまえに捉えていたコンクリートやレンガに刻み込まれた性差別の仕組みを発見する。

そういえば、どうして女子トイレはいつも長い行列なのだろうか。それをあたりまえのモノとして受け入れてきたのは、なぜなのか。女友達と遊んだ帰り道、互いに無事の報告をしあう習慣はいつから身についたのだろうか？

都市における著者自身の経験の記述と、調査から見えてくるデータが、私が日々生活する都市に場所を変えて立体的に浮かび上がってくる。そして、この性差別が刻み込まれた都市で、女性をはじめとするマイノリティが「どのようにサバイブしてきたか」を知ることによって、明日からもこの街で生きる勇気に繋がる気がする。

あらゆるジェンダーの人に向かって都市が作られるとき、その街で暮らす私たちの日常はどんなふうに変わるのだろうか？フェミニズム地理学の研究者が自身の身体と日常生活の経験から、切実に紐解く一冊。

2021 年 4 月発行
（著者）レイチェル・イグノトフスキー
（翻訳）野中 モモ
（出版）創元社

『社会を変えた50人の女性アーティストたち』

ピカソ、ダリ、モネ、ミケランジェロ…。有名で偉大なアーティストは男性ばかり？

「女性は裸にならないと、メトロポリタン美術館に入れないのだろうか？」

80年代、フェミニストアーティストグループ「ゲリラガールズ」は、アート業界の性差別をユーモアと皮肉で痛烈に批判しました。今日においても、いまだに男性優位な構造が保たれているアート業界。しかし実際には、今も昔も世界中に偉大な女性アーティストは数えきれないほど存在することをご存じでしょうか？

女性たちの鮮やかな軌跡や作品たちをカラフルで楽しげなイラストで紹介する本書では、草間彌生や妹島和代など日本を代表するアーティストも紹介されていて、取り上げられるのもファインアートに限らず、デザイン・建築・写真・彫刻など多岐にわたります。

同じ作者による『世界を変えた50人の女性科学者たち』『歴史を変えた50人の女性アスリートたち』も併せて読むと、さらに勇気と元気がもらえるはず！子どもから大人まで目で見て楽しみながら、ジェンダーについて考えることができるシリーズです。

2021 年 1 月発行
（著者）午後
（出版）KADOKAWA

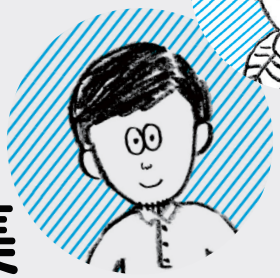
『眠れぬ夜はケーキを焼いて』

なんとなく心がモヤモヤしていて眠れない、計画通りに物事を進められなくて自己嫌悪…。こんなことってありますよね。このマンガの主人公のオオカミさんは、そんなときにはケーキを焼きます。そして同居の猫さんに「うだうだうだ」とグチります。「漠然とした不安に飲み込まれそうで怖くてたまらない」ときに、漂ってくる「甘いケーキの焼ける香り」。想像してみるだけでも気持ちが緩みませんか？

オオカミさんが焼くケーキはどれもシンプルです。レシピも収録されていて、3巻まで続刊が出ています。午後さんのレシピで作ってみたガトーショコラ（1巻収録）、バナナケーキ（2巻収録）、スイートポテト（3巻収録）、どれもほっとするおいしさです。ぜひお試しあれ！

ご案内

WAY TO BE A DAD



SCRUM 21
KAWASAKI-CITY

IKIMEN LABORATORY

イキメン研究所 メンバー大募集

イキメンとは

「家庭でも地域でもイキイキと過ごすパパ」のこと。
仕事・子育て・家事で奮闘する川崎のパパ達が、様々な活動を通して地域でパパネットワークを広める活動をしています。

2024 年度は、毎年恒例のコンサートイベントのほか、パパとお子さんが一緒に楽しみながら参加できるイベントを予定しています。川崎に転入してきたというパパ、子育てや家事について「ほかのパパはどうしている？」というパパも歓迎。プレパパも熟練パパも大歓迎です。メンバー参加希望者は下記までご連絡ください。大勢の方のご参加お待ちしています。

2024 年度の主な活動予定

7/27 ㊏	10：00 ～ 12：00	みんなで水あそび
8/18 ㊐	14：00 ～ 15：00	イキメン研究所プレゼンツ　親子で楽しむコンサート
9/28 ㊏	10：00 ～ 12：00	ミニ秋まつり
11/23 ㊏	10：00 ～ 12：00	クリスマス飾りをつくろう！
1/26 ㊐	10：00 ～ 12：00	お部屋のなかで運動あそび
3 月		イキメンジャーナル No.10　発行

※予定は変更する場合があります。
最新情報については、下記記載のホームページまたは X をご参照ください。

詳しくは、すくらむ 21 までお問い合わせください

川崎市男女共同参画センター（すくらむ 21）
電話番号：044-813-0808
イキメンページ：https://www.scrum21.or.jp/welfare/ikimen
イキメン X（旧ツイッター）https://twitter.com/ikimen_x

『ちちしるべ』配布してます！

パパたちが考えた
川崎の父子手帳です！

2016 年 キッズデザイン賞【男女共同参画部門】
奨励賞 キッズデザイン協議会会長賞 受賞

◀イキメン研究所の活動紹介はこちらから

◀X（旧ツイッター）からの情報はこちらから

ikimen_x

Information

毎月第2金曜日　定期開催

すくらむ 21 プチマルシェ

川崎市内の女性起業家や起業準備中の女性、地域で活躍できる場を求める女性が、自分の作ったものを販売し、お客様の反応を直接確かめてみたい、他の女性起業家さんとの協業のチャンスを探してみたいなど販売実践の場として、毎月第２金曜日にすくらむ 21 プチマルシェを開催しています。

2024 年 7/12・9/13・10/11・11/8・12/13

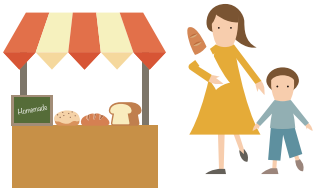
2025 年 1/17※・2/14・3/14・4/11・5/9

11：30 ～ 13：00

※1 月 17 日のみ第 3 金曜日開催

※ 飲食物はすべてテイクアウト形式の販売。売り切れ次第、販売終了。

会場：川崎市男女共同参画センター（すくらむ 21）
１階・ホール前ホワイエ　他



「手芸クラブ」のご案内

あまり外に出る機会がなくなっている方、人との関わりを求めている方、みんなで手を動かしながら、日頃のいろんなことを話してみませんか？
1 回だけの参加も大歓迎ですので、気軽にご参加ください。

2024 年 8/9㊎・10/11㊎・11/8㊎　2025 年 1/17㊎・2/14㊎

すくらむ 21 プチマルシェと同日開催です

10：00 ～ 13：00　会場：川崎市男女共同参画センター（すくらむ 21）
２階・第１・２研修室

定　員：各回 20 名（予約不要）
※一時保育あり（お電話にて申込受付）

持ち物：手芸をするのに必要な布・針・小物・道具などの材料

その他、初心者向け体験会（7/12㊎・9/14㊏・12/14㊏・3/8㊏）を開催。

詳細は、すくらむ 21 のホームページをご覧ください。

かわさきの男女共同参画情報誌

すくらむ

発行年月　令和6(2024)年6月
編集・発行　川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）
所在地　〒213-0001
川崎市高津区溝口2丁目20番1号
ホームページ　https://www.scrum21.or.jp/
電話　044-813-0808
ＦＡＸ　044-813-0864